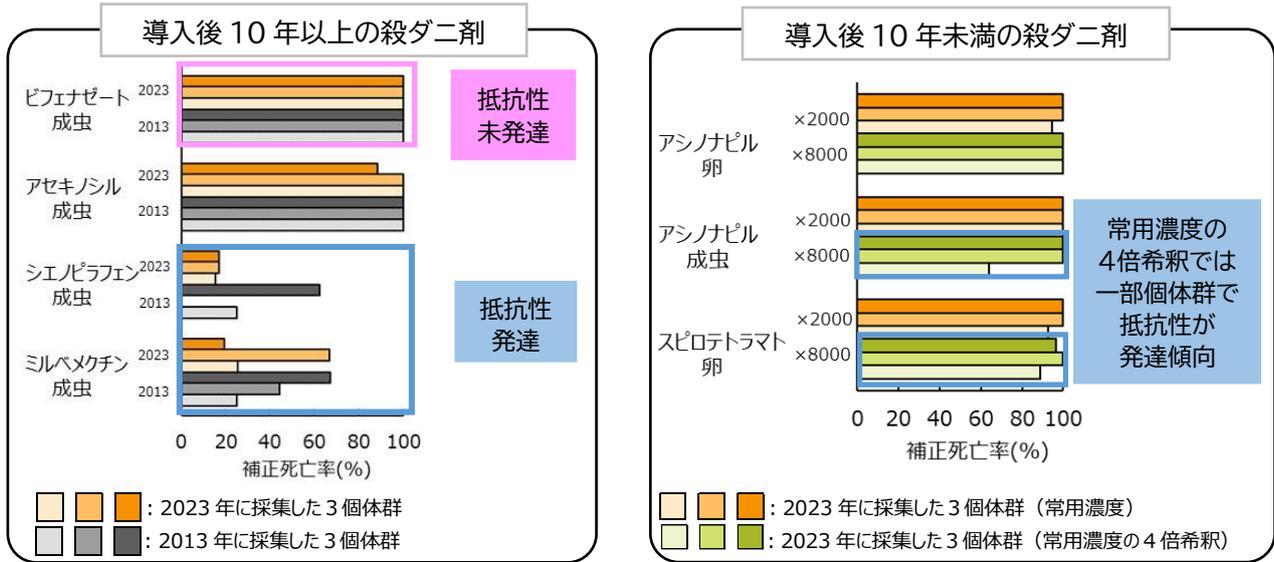


気門封鎖剤混用による薬剤抵抗性ナミハダニに対する殺ダニ剤の効果向上

利用対象：生産者、指導者

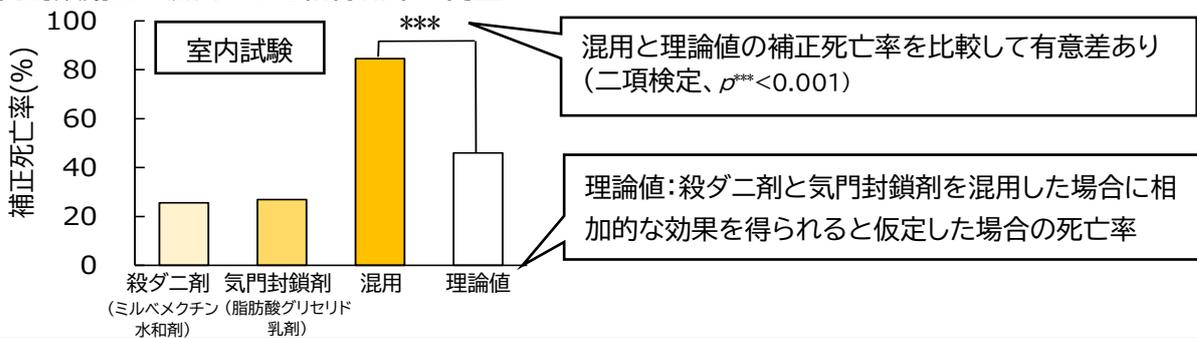
県内イチゴ産地では、ハダニ類防除として特定の殺ダニ剤の使用頻度が高くなっており、薬剤抵抗性を発達させるリスクがあります。そこで、主要イチゴ産地におけるナミハダニの薬剤抵抗性の発達状況を把握するとともに、気門封鎖剤との混用による防除効果について検討しました。

〇イチゴ栽培における基幹防除剤として使用されている殺ダニ剤に対するナミハダニの薬剤抵抗性



10年前と比較し、2剤(シエノピラフェン、ミルバメクチン)の薬剤抵抗性が発達していました。導入後10年未満の殺ダニ剤でも、今後薬剤抵抗性が発達するリスクが認められました。

〇気門封鎖剤との混用による防除効果の向上



薬剤抵抗性が発達した殺ダニ剤と気門封鎖剤との混用により、相乗的な防除効果が得られました。

- ナミハダニに対する防除効果の高い剤が10年前よりも少なくなっているため、ナミハダニの薬剤抵抗性が発達するリスクが高くなっています。
- 天敵等を取り入れて殺ダニ剤の使用回数を減らすとともに、気門封鎖剤との混用散布を行うことで薬剤抵抗性発達リスクを低減させることが期待できます。
- 混用散布による天敵への影響は確認できていないため、使用には注意してください。
- 混用する薬剤の種類によっては薬害が発生する恐れがあるため、使用前に確認してください。

お問い合わせ先	基盤技術研究室 農産物安全安心研究課 山口友莉香 電話 0598-42-6360 中央農業改良普及センター 中村領介 電話 0598-42-6323
参考になる資料	https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm (三重農研HP)